

ラフティング	場所	比較的安全な犀川（さいがわ）にて行っています。 《ラフティングボートとは》 特殊強化ゴムでできた8つの空気層をもつゴムボートです。岩にぶつかっても破れることはまずありません。万が一破れてしまっても、他の空気層が浮力を保持するので沈むことはありません。 1艇の定員は7名(ガイドを含めない)、もしくは9名(ガイドを含めない)です。定員はボートの種類によって異なります。
	安全装備	ウェットスーツ、パドリングジャケット、ライフジャケット、ヘルメットを必ず着用してもらいます。 ヘルメットは川に落ちたとき岩などの障害物から身を守ることができます。ウェットスーツは水に濡れても保温性を保ちますので、水温の低い時期でも大丈夫でウェットスーツ、パドリングジャケット、ライフジャケット、ヘルメットを必ず着用してもらいます。ヘルメットは川に落ちたとき岩などの障害物から身を守ることができます。ウェットスーツは水に濡れても保温性を保ちますので、水温の低い時期でも大丈夫です。
	指導員 指導法	1艇に必ず1人のガイドが同乗します。ガイドはシーズン営業開始前から徹底した川の調査やトレーニングを行い、増水、雨天、強風等あらゆる条件に対応でき、また以下の水難救助や救命救助の資格を取得したものが同乗します。 《レスキュー3》 ・アメリカに本部を持つレスキュー専門の講習機関欧米では水辺で活躍する警察官や消防士にとって必須の資格となっています。 当社は長野県支部として活動しています。 《日本赤十字社救急法救急員》 ・不慮の事故や急病に対する応急手当の方法や心肺蘇生法（CPR）の知識、技術に関する資格です。 当社は毎年講師を呼んで講習会を開き、スタッフを育成しております。 ツアーに出る前に必ず安全講習（セーフティートーク）を行っております。 犀川は川幅が広く流れは穏やかです。また上流でダム管理されておりますので、水量が十分にあり比較的安全です。 ツアーは、TL（ツアーリーダー）が全体をまとめ安全を確認しながら下ります。 ツアーには救急用品を常備しており、万が一、ツアー中に怪我してしまってもすばやく対処出来ます。 TLはツアー中の緊急時に備え防水携帯電話を常備しており、陸上班（チェイス）にすぐ連絡がとれるサポート体制をとっております。
	中止基準	東京電力平ダムの放水量が毎秒500tを超えた場合。 観測地点・観測地点の犀川陸郷水位が2mに達した場合。 大雨洪水警報が発令された場合。 TLが気象条件・その他条件によりツアー催行不可能と判断した場合。

ツリーアドベンチャー	場所	白馬村内、もしくは周辺のツリーアドベンチャー施設を使用して体験を行います。
	安全装備	毎日、毎朝コース点検を行っています。 安全基準に合格している装備を使用しています。 必ずハーネスつけていて瞬時的に700Kgまでに耐えることができるハーネスを着用します。
	指導員 指導法	最初に、安全設備着用し、1人ずつスタッフによる安全確認を実施します。 体験前指導を行い体験して頂きます。
	中止基準	雨天実施。雷が発生した場合や視界の確保が困難になる程度の降雨の場合。

キャニオニング・シャワーウォーキング	場所	筑北村差切峡の麻績川中腹、または白馬 47 スキー場前の平川上部で行います。
	安全装備	ウェットスーツ、ライフジャケット、ヘルメットを必ず着用してもらいます。 ライフジャケットは川の流れの中でも十分に浮力を保持できる物を使用します。 ヘルメットは川で転倒した時、岩などの障害物から身を守ることができます。 ウェットスーツは保温性がありますので、水温の低い時期でも大丈夫です。
	指導員 指導法	10人ぐらいに1人のインストラクターがつきます。 また下記の急流救助の資格や上級救命講習の資格を取得したガイドが常駐いたします。美しい渓谷の川の流れに身を任せたり、流れを遡ったりして、秘境の川をツアーいたします。 体験する前に指導員から安全講習があります。列になり川の中をツアーしていきます。列の先頭、最後尾には特に経験豊富なスタッフを配置し、人数に対しての相応数のガイドを中間に均等に配置してツアーしていきます。
	中止基準	川の水量が増えてきて指導員が危険と判断した場合、速やかに川からあがるように指示があります。 陸上に不慮の事故などに備えてスタッフを配置します。

イカダ作り	場所	日本で過去に3番目の透明度のある青木湖で行っています。
	安全装備	湖ではライフジャケットを全員装備しております。 湖ではウェットスーツ必ず着用します。
	指導員 指導法	10人ぐらいに1人のインストラクターがつきます。 インストラクターはシーズン営業開始からサポートトレーニング、安全に関する知識の講習を行い、お客様が安全体験出来る体制を整えております。コースは毎日毎朝スタッフがコースの点検を行っております。いろいろな材料を並べてあるものを自分達で選んで自分達だけのイカダを設計制作してもらいます。湖に出ている時はサポート艇を出して安全を見守っています。
	中止基準	雨天実施。雷は中止もしくは安全な場所に移動し様子を見ます。

SUP	場所	日本で過去に3番目の透明度のある青木湖で行っています。
	安全装備	SUP とは、スタンド・アップ・パドルの略称でフローティングの薄いボートの上に立ってパドルで漕ぎ移動する乗り物です。 ライフジャケットを必ず着用してもらいます。気温に応じてウェットスーツを着用、リーシュコード（ボートとつながるもの）を装備。 安全講習を行います。
	指導員 指導法	10人ぐらいに1人のインストラクターがつきます。 弊社の規定する技術を要するものがガイドします。
	中止基準	雨天実施。雷は中止もしくは安全な場所に移動し様子を見ます。

カヤック	場所	日本で過去に3番目の透明度のある青木湖で行っています。
	安全装備	濡れても良い服装の着用を義務つけています。 ライフジャケットを必ず着用してもらいます。ライフジャケットは湖の中でも十分浮力を保持できる6～8kg 浮力のものを使用しています。
	指導員 指導法	8～10人ぐらいに1人のインストラクターがつきます インストラクターはシーズン営業開始から徹底したサポート練習、技術のトレーニングを行い、お客様が安心して体験出来る体制を整えております。また下記のレスキュー3の資格や日本赤十字社救急法救急員の資格を取得した者もおります。 一人乗りの川下り用カヤックを湖（青木湖）にて使用します。 体験時の安全説明とともに装備の使い方を説明してから湖での体験を開始します。湖では基本的な進み方などをレッスンした後、生徒さんのレベルに合わせてツアーを行います。 転覆しまったときの説明（パニックを防ぐ為） 転覆、脱出することを「沈脱」と呼び、カヌー遊びにはつきものです。沈脱そのものは怖いことでなく、興味のある生徒さんには沈脱体験を行なっていただくこともあります。沈脱した場合はインストラクターがサポートにはいり、ボートと生徒さんを岸まで運び（自分で泳いでもらうこともあります）、岸でボートの水を抜いてボートに乗り込み再度出発します。湖で沈脱する割合は低く、20～30人に1人ぐらいです。 沈脱したくない生徒さんには、インストラクターが気を配りながらレッスンいたします。 《日本赤十字社救急法救急員》 ・不慮の事故や急病に対する応急手当の方法や心肺蘇生法（CPR）の知識、技術に関する資格です。
	中止基準	雨天実施。雷は中止もしくは安全な場所に移動し様子を見ます。 公共機関から中止要請があった場合。 インストラクターが気象条件・その他条件により講習不可能と判断した場合。

フィッシング	場所	47 スキー場駐車場前の平川河川沿い。流れが比較のおだやかな平川にて行っています。
	安全装備	指導員は応急手当用のセットを携行しています。 万が一けが人が出た際に備えて、速やかに病院へ搬送できる体制をとっています。
	指導員 指導法	溪流釣りが得意な地元の方に依頼しています。体験する前に指導員から釣竿の取扱・安全講習があります。 川の水量が増えてきて指導員が危険と判断した場合、速やかに水からあがるように指示があります。
	中止基準	雨天実施。川の水量が増えてきて指導員が危険と判断した場合や荒天の場合。

ネイチャートレッキング	場所	姫川源流 または白馬47上部、安全が確保できる森林の中をガイドと共に散策します。
	安全装備	指導員は応急手当用のセットを携行しています。 万が一けが人が出た際に備えて、速やかに病院へ搬送できる体制をとっています。
	指導員 指導法	自然に関する知識が豊富なガイドが生徒20人に対し1人つきます。動きやすい服装、靴を着用。 急な雨天に対応するため、雨カッパは必ず携行します。実施される場所は比較的安全が確保できる森林ですが、自然は何が起こるかわかりません。 指導員が危険と判断する場所などに立ち入らないなどの注意事項を事前にまたは都度伝えます。
	中止基準	雨天実施。雷が発生した場合や視界の確保が困難になる程度の降雨の場合。

マウンテンバイク	場所	初心者向け白馬 47 マウンテンスポーツパークにて行います。 時期により、村内でのファンライドでの対応になる場合がございます。
	安全装備	ヘルメット、手袋、長袖、長ズボンの着用を義務つけています。
	指導員 指導法	10人ぐらいに1人のガイドがつきます。 はじめに平地にて1時間ほど基礎練習を行います。 まず、サドルの高さを両足がつくまで下げ、ハンドルの握り方、ブレーキの握り方を指導いたします。次にギアチェンジの換え方や両ペダルにどのように体重を乗せるか指導し、走りながらギアの調節をしていきます。 ブレーキのかけ片、特徴、握り方はとても重要なことなので、「前のブレーキをかけすぎない。後ろのブレーキは効きが悪い。」など、怪我へつながらる注意事項を明確にしたうえで、実際に急ブレーキのかけかたを練習していきます。ここでブレーキテストを行い、ブレーキの調子が悪いものは取り替えていきます。 基礎練習が終了後、ゴンドラに乗ってダウンヒルに挑戦していきます。 先頭のインストラクターを絶対に抜かないこと（この時先頭のインストラクターがゆっくり行き班全体のスピードを落とさせる）自分の技量を越えたスピードをださないこと、無理をしないなど、ダウンヒルの注意をしていきます。実際に下っている最中も無理をしないように注意を促していきます。 ブレーキの握り過ぎで腕が疲れますので、途中で何回か休憩を取ります。 ※ファンライドの場合は、村内の整備されたオフロードを景観も楽しみながら走ります。
	中止基準	雨天実施。雷が発生した場合や視界の確保が困難になる程度の降雨の場合。 公共機関から中止要請があった場合。 ガイドが気象条件・その他条件により講習不可能と判断した場合。

乗馬体験	場所	馬が外に出ないように、管理された柵の中で行います。
	安全装備	運動靴、動きやすい長ズボン、ゴムつきの軍手を持ってきてください。こちらでヘルメットを貸し出します。
	指導員 指導法	経験豊富なインストラクターが付きます。実際に体験する前に生徒に分かりやすく安全体験するための説明をいたします。万が一怪我人が出た場合はすみやかに近くの病院に搬送できる体制をとっています。
	中止基準	激しい豪雨や馬場の状況により、インストラクターが講習不可能と判断した場合。

クライミング	場所	周辺のクライミングウォールを使用して体験を行います。
	安全装備	体験時にはかならずハーネスを着用します。長袖長ズボンを着用。
	指導員 指導法	10人ぐらいに1人の経験豊富なインストラクターがつきます。 最初に、クライミングの道具や登り方、降り方などの基本説明と安全講習をします。 軽い準備体操の後、実際に体験に入ります。体験は1人ずつ交代で行います。その際、インストラクターは必要があればサポートに入ります。
	中止基準	室内実施のため中止基準なし

パラグライダー	場所	斜面を利用しますので走りやすく、転んでしまっても草が生えているのでクッションの代わりになってくれます。 5月上旬から6月中旬は天気&風の状態が良く、パラグライダーの実施確率は90%となっています。
	安全装備	軍手、長袖、長ズボン、走りやすい靴の着用を義務づけています。グライダーは、体重にあったサイズ（大きさ）のもの、穴の開いてないもの、揚力性のあるものを使用します。グライダーと自分をつなぐラインは、損傷やほつれがないもの、細いけど強度のあるものを使用し、一回一回ねじれや絡みがないかチェックしていきます。
	指導員 指導法	8～10人ぐらいに1人のインストラクターがつきます。 インストラクターはシーズン営業開始からフライト技術の向上、サポートトレーニング、安全に関する知識の講習を行い、お客様が安全にフライト出来る体制を整えております。中にはJHF（日本ハンググライディング連盟）の資格取得者、日本赤十字社救急法救急員の資格取得者もおります。 インストラクターがサポートしながら浮遊体験を味わってもらいます。浮遊する高さはだいたい1、5m～2m程度です。これでもちょっとした浮遊感覚を味わえます。1日体験の場合は斜面の少し高いところまで登り、1人でフライトしてもらいます。フライトするまでインストラクターがサポートいたします。フライトをしたら拡声器（メガホン）で誘導します。浮遊する高さはだいたい5m～6m程度です。
	中止基準	風速が6mを超えた場合または降雨や雷が発生した場合。 公共機関から中止要請があった場合。 インストラクターが気象条件・その他条件により講習不可能と判断した場合。

熱気球係留体験	浮遊体験	気球をロープで固定し、高度約30mまでの浮遊体験・係留です。風まかせで飛行するフリーフライトではありません。早朝は大気安定しており風が穏やかですので安全に体験出来ます。 実施条件としては風速約3m/s以下、雨天時不可となります。一回の浮遊時間は3～5分程度。 運行は日本気球連盟の係留安全規定に基づき実施しています。
	安全装備	熱気球のバスケットは籐（とう）で出来ています。籐は衝撃を吸収してくれる素材として最適な物です。多少風に揺られても、バスケットの中に入っていれば危険なことはありません。 ロープは5トンに耐えられるものを3本以上使用します。
	指導員 指導法	熱気球の操縦は日本気球連盟が発行する「熱気球操縦技能証」いわゆるパイロット免許を取得しているものが行います。風の状況により危険と判断した場合は、途中で中断する場合があります。その判断はすべてのパイロットが経験と気象情報に基づいて行います。 その他のスタッフも最低限の知識とサポート経験を積んでいます。 <日本気球連盟> 日本唯一の熱気球航空スポーツの団体。過去30年間、徹底した安全管理・技能操縦士制度の確立のより、日本国内での熱気球活動の発展を支えてきました。国際航空連盟：FAJの気球部門としての活動や熱気球の啓蒙活動（無知な人に知識を与える活動）を行い、また社会への対外的窓口としての機能を果たし、財団法人日本航空協会にも所属しています。
	中止基準	気球の運行は日本気球連盟の係留安全規定に基づき実施しますので、以下の場合は催行を中止いたします。 風速3mを超える場合や降雨の場合。 公共機関から中止要請があった場合。 パイロットが気象条件・その他条件により講習不可能と判断した場合。